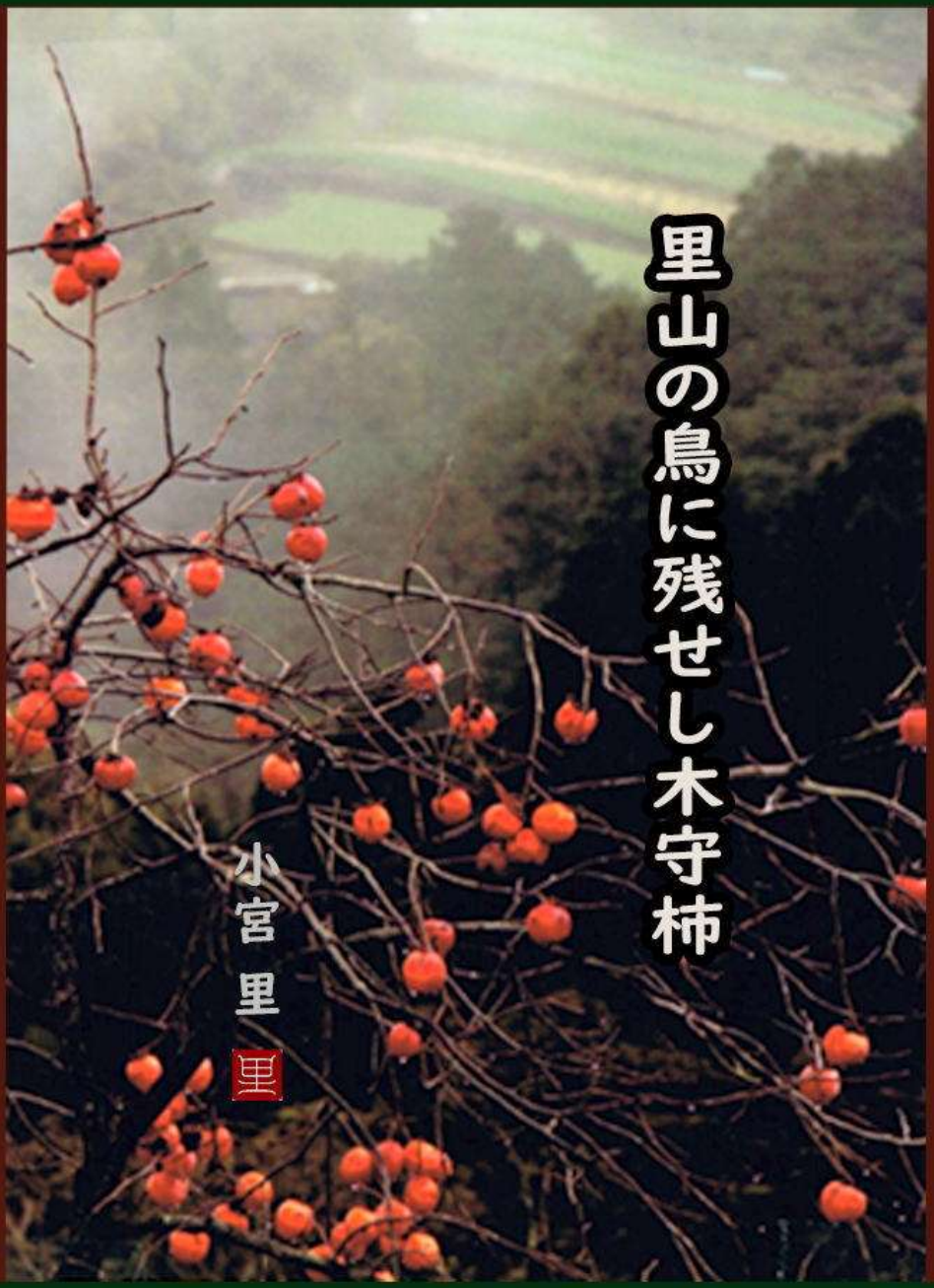
第12回 熱海写真俳句撮詠物語
作品展

開催期間　2024年10月3日～9日
発表場所　当会ホームページ

熱海写真俳句撮詠物語

第12回 令和6年 写真俳句作品展



WEB会場　10月3日（木）～ 9日（水）

主催：熱海写真俳句撮詠物語

ご挨拶

　第12回目の作品展を開催します。昨年よりＨＰを会場とした展示会となりました。

　私事になりますが、故森村誠一先生が幸運にもご近所にお住まいであったことのご縁もあり『熱海写真俳句撮詠物語』に令和3年８月入会し３年となります。
そして諸事情のもと昨年より会長職を務めながら写真作句に呻吟する日々を過ごさせて頂いております。
お陰様で多士済々の会員の皆様とこのような作品展をもてることに感謝しております。今年も事務局の矢﨑様がどのような展示会にして下さるか興味津津です。
家族や友人の反応は、“驚き桃の木山椒の木”です。
さて、これからも呻吟しながら会員の皆様と共に写真作句を続け、第13回の作品展を目指したいと願っております。

熱海写真俳句撮詠物語会長　久恒仰平

＊　展示は俳号順

久恒仰天

HISATUNE GYOUTEN

東京都町田市

手繰り揚ぐ伊佐木の縞の光をり 卯天

　久し振りに魚釣りに。旬の大イサキを狙ったが、上がってきたのは小もの。残念。
成長するにつれ大きいイサキの縞は目立たなくなるが、幼児期では黄色の縞がくっきりと。
同じように釣った鯛と並べてみた。初島沖の日光に照らされ、黄色の縞が綺麗だった。

櫻鯛男子厨へ入るべし

　桜鯛の季節である。　鯛飯をつくってみた。
　まあまあの出来。　家人からの評価もまあまあ。
　「これからは男も料理出来ないと云々・・」と孫に
　孟子さんには申し訳ないが。

喧し秋風吹くや永田町

いつもの段
　　選挙のときだけの政策提示。
　　フォ―マンスのみ。
過去最大の台風接近。
　　暑苦しいときに。人生百年の時代。
　　古諺も変わるか？
　　イヤ六〇耳従。　老害は老害。

若竹の色に染まりつ風渡む

藍染の袖に隠れて夕棒

目がぴっぷりと暮れ、藍色に染まり切った庭に一輪の白い棒が咲いてる。袖がくしと言う棒で、袖に隠してでも持ち出したという謂れある棒だけに見事な白棒だ。藍色の庭を藍染の着物の袖に見立てて詠んでみた。

青梅雨や鈴の音鳴る地蔵堂

梅雨の雨が降り続く中、鈴が重くなりつつある地蔵堂の前に佇んでいた。この地蔵の傍は青梅雨と言われているだけに青木の緑をより一層際立たせてくれる。傍の岡に年の人達に親しみの地蔵堂がある。地蔵は安産地蔵と言う。いつも通りにお参りをした。梅雨の長雨のせいなのだろうか、地蔵堂の前の音がいつもよりのんびりと鳴って響いた。

吉田木練

YOSHIDA KONERI

奈良県御所市

藍染の袖に隠れて夕椿

日がどっぷりと暮れ、藍色に染まり切った庭に一輪の白い椿が咲いてる。袖かくしと言う椿で、袖に隠してでも持ち出したという謂れある椿だけに見事な白椿だ。藍色の庭を藍染の着物の袖に見立てて詠んでみた。

若竹の色に染まりつ風撓む

いつもの散歩コースの谷川に沿う道を歩く。対岸の向こうには広大な竹藪が広がっていて、若竹が初夏の爽やかな風を受けて、波のうねりを見ているようだ。広大な竹藪を抜けた辺りで若竹が綺麗に一列に並んでいる所に出た。一列に並んだ若竹色に染まった風が大きく撓んでいるように思えた。

青梅雨や鈴の音鈍る地蔵堂

梅雨の雨が降り続く中、緑が濃くなりつつある桜並木の川沿いを歩いた。この時期の雨は青梅雨と言われているだけに並木の緑をより一層際立たせてくれる。橋の袂に町の人達に馴染みの地蔵堂がある。柳田川安産地蔵と言う。いつも通りにお参りをした。梅雨の長雨のせいなのだろうか、地蔵堂の鈴の音がいつもより心なしか鈍って響いた。

北斎とまではゆかぬが夏磯波

私にしては根気よく波の打ちあがるのを待ちました。もう少しはと期待したのですが　残念！

小宮　里

KOMIYA　SATO

静岡県長泉町

落暉いま春の入日の波に散る 里

入日は淋しい。陽が沈んだ後、なぜか虚しさが残る。今日といふ一日が忘れあれない日になって欲しい。そんな思いもする。

紅の濃き道端の芥子誘われて

芥子の花。その実は麻薬のイメージが強いが、花は美しく多くの人々を誘い魅惑する。

北斎とまではゆかぬが夏磯波

私にしては根気よく波の打ちあがるのを待ちました。もう少しはと期待したのですが　残念！

久喜更紗

KUKI　SARASA

愛知県名古屋市

踏み鳴らす靴の底より春来る

　コロナ禍の為、三年ぶりに地元小学校の児童を招いての節分祭であった。鬼は外～福は内～と元気に豆を撒いた後、ご住職のお話を聴き、枡と福豆を受取り、嬉しそうに楽しんでいた。綺麗に並べられた靴を履き、トントンとリズミカルに踏み鳴らし、整列して「どうも有難うございました」と一礼をして学校に戻って行った。
　明日は立春である。子供達の未来に幸あれと見送った。

ふらここや誰待つとなく揺れてをり

春休みに入り、公園では子供の姿もなく、ぶらんこが、時折吹く風に揺れていた。それをたんぽぽが眺めていた。互いに本心は、元気な子供達が遊びに来るのを待っているのであろう。私もその一人である。そして、新学期が始まった。

余生こそ少し冒険夏帽子

　お気に入りのデザイナーが逝去され、そのお嬢様のデザインのブルー系の洋服に合わせての夏帽子である。シンプルなデザインを好む私には、いささか派手なデザインかと。年を重ねてこそ、少し華やかさをとのアドバイス。５年ぶりの夏帽子は、私には冒険である。姿見に夏帽子を被った私。背筋伸ばして、今から友とランチにＧＯである。

鈴木驟雨
SUZUKI　SYU-U

愛知県名古屋市

花びらに水玉揺るる翠雨かな

暑くなってきましたが、なかなか雨が降りません。久しぶりの雨に、植物も喜んでいるように見えます。

笑ひ声残る植田の没日かな

田んぼ仕事のお手伝いをしました。
集まったのは、小さなお子さんから大人まで、
なんと70名。お昼ご飯もみんなで。
楽しかったです。

はふはふとすするうどんの寒卵

味噌煮込みうどんの、卵黄は最後までつぶさないでおいておきたい、しかしネギは沈めて柔らかくしたい、 など、こだわり多めの名古屋人です。

堀江忠彦

HORIE TADAHIKO

東京都品川区

雪林を染める朝日の微塵なる

朝の何とも言えない柔らかな光線最高でした。

見た見ない見た人だけの雪をんな

　これは山の上の景色ですが運が良ければ雪女に出会えるかもしれません。

黄落を踏む足音の三拍子

忠彦

朝の散歩道だいぶ溜まった黄落を皆小気味よい音を立てて足早に過ぎ去ります。

台風の通過途中や子守歌

大型台風の直撃通過予報にひやひやしました。幸い、大きな被害がなく去って行ってくれました。赤ちゃんにとっては、暴風雨の音も胎内で聞いた音を思い出すのか、よく眠っていました。

寝る子は女児らしいよ初夏の風

7月に誕生予定の孫は、女の子らしいと聞きました。暑い夜間に爽やかな風が吹き、穏やかな気持ちにさせてもらいました。

山茱萸色とリビリのランドセル

新学期が始まり、小学生が元気に登校しています。最近のランドセルは、金茶の柿みの色を連ぶようになりカラフルです。

蝶花

小野蝶花

ONO　TYOUKA

香川県三豊市

台風の通過途中や子守歌

蝶花

大型台風の直撃通過予報にひやひやしました。幸い、大きな被害がなく去って行ってくれました。赤ちゃんにとっては、暴風雨の音も胎内で聞いた音を思い出すのか、よく眠っていました。

宿る子は女児らしいよ初夏の風 蝶花

７月に誕生予定の孫は、女の子らしいと聞きました。美しい花園に爽やかな風が吹き、穏やかな気持ちにさせてもらいました。

山笑ふ色とりどりのランドセル

蝶花

新学期が始まり、小学生が元気に登校しています。最近のランドセルは、自分の好みの色を選ぶようになりカラフルです。

歩人

矢崎歩人

YAZAKI HOBITO

京都府木津川市

大仏池冴える雅の大鏡

十一月早朝、東大寺大仏殿の真上に朝日が昇る。
高い空には鱗雲がこちらに向かって放射線上に張り出し、大仏池にその姿を映す。小波を携え、大きな鏡となって応える大仏池は大らかだ。千三百年前の奈良の時代に、多くの人々がこの情景を見、感動したのだろうと思うと思いが一層深まるのを感じる。

嵐去りいつものリズム律の風

我が家と奈良公園の間に、大きな運動公園がありこの鴻ノ池がある。左程大きくはないが、水草などもあり生態系が整った優しい池だ。鴨やシラサギ、雀や鯉、亀などがいて水面に様々な波紋をつくり、朝日を彩り、みていて飽きることが無い。浮遊木にとまった小型のシラサギが餌を狙って構えている。穏やかな秋の風をうけ今日が始まろうとしている。

さり気なくもてなす心よひら咲く

浄瑠璃寺は、細い参道を真っすぐに進むと瀟洒な門があり、その先は極楽浄土の世界となる。梅雨に入った先日、沢山の紫陽花の咲くそんな浄土を訪ねた。玄関先、紫陽花の一枝が「浄瑠璃寺にようこそ」と迎えてくれた。さり気ない季節の出迎えは最上のおもてなしだ。

第12回熱海写真俳句撮詠物語
作品展

発　行　　令和6年（2024）10月3日
題　名　　第12回熱海写真俳句撮詠物語作品展
開催日　　令和6年（2024）10月3日～9日
編　集　　矢崎英夫
発行者　　久恒仰平
発行所　　写心栞工房
京都府木津川市南加茂台1-9-16
連絡先　080-3217-3297